



医学部 医科栄養学科 4年
榎崎 遥子 (ならききょうこ)

こんにちは。医学部栄養学科4年の榎崎遥子と申します。私は食や健康に一番の興味を抱いており、研究や勉学に勤しむ毎日ですが、時に休みがあれば出掛けて行き、心くすぐられる出会いや発見そして街の息づかいを感じることも大好きな学生です。

卒業までのカウントダウンも気がつけば残りわずかとなった今、私の大学生活を思い返してみますと、転機が訪れたのは2年生の頃でした。夏休みに行ったオーストラリア旅行(現地の方宅へのショートステイ)での出会いをきつ

かけにもっと英語で交流できるようにになりたい、海外に行きたいと強く考えるようになりました。そしてそれからというもの、蔵本での授業が終わると自転車で往復40分、常三島のESRへ時間を見つけては通い続けました。春休みにはオーストラリアでの短期語学研修に参加し、現地で自分と同じ栄養学を学ぶ学生に会いたいと思い、自ら栄養学の学生サークルに交渉してその機会を獲得し、将来について深く考えるきっかけを掴みました。帰国後に友人や先輩方から「顔が変わったね、生き生きしているし、楽しそう」と言われるようになり、「気持ちだけでなくてそれを行動に移せばもっと成長できる、もっと楽しくなる」と実感しました。気がついたときには行動の幅が広がり、2年生の夏ごろからはgreen bird徳島というお掃除活動にも参加し始め、今は新たな習い事にも挑戦しています。

3年生の2月からは研究室配属になり、健常者を対象に臨床研究を行っています。研究期間は土日の片方に休み(休みの日バイト)をとり、それ以外は毎日、早くて6時30分に始まり、遅い時には23時30分に帰路に着くという生活です。肉体的にも精神的にもかな



研究室の最高の同期と。(本人:左端)



green bird徳島に参加し始めた頃。お掃除終わりの一枚。(本人:前列左端)

りハードな毎日のはずですが、結果から考察し、失敗から学び、新たな知識を獲得し、上手くいったいなかった実験が成功したときの喜びを味わうことができ、そして何よりも尊敬できる先生、先輩、同期がいるおかげで本当に充実した毎日です。

卒業後は大学院へ進学します。まだまだ未熟な自分を痛感する中、現在は具体的な将来の方向性を模索中ですが、学んでいることを活かして国内に留まらず世界を舞台に活躍できるようにしたいと考えています。

入学当初は徳島での大学生活に楽しみを見いだせない私でしたが、今では大地の恵み、そして身にしみるような温かい方々の



オーストラリアで出会ったBND(Nutrition and Dietetics) societyの学生達と。

おかげでこの徳島での生活に魅了され、ここに来てよかったと心から思うようになりました。

最後になりましたが、このような執筆の機会を与えていただけなこと、いつも支えていただいている周りの方々にこの場をおかりして心から感謝申し上げます。これからも「目を高く、頭を低く、心は広く」一瞬一瞬を大切に成長していきたいと存じます。

My Life Situation

- アルバイト
徳島大学附属図書館蔵本分館
- 趣味
カフェ・パン屋さんめぐり、散歩、サイクリング



「よーちゃんはよく食べる!」と口を揃えて言われます。

徳大生 大活躍!

人と共生する ホタルの生態を探る

工学部建設工学科 4年
田中 洋平 (たなか しょうへい)



ホタルは人里離れたきれいな水に棲む、と思われている方が多いかもしれませんが、その生態系の中には人間の生活がしっかりと組み込まれています。極端に言えば、人の住まないところにホタルは繁殖しないのです。

ホタルの幼虫はカワニナ(川蝸)という小さな巻貝をエサにしています。そのカワニナは人の生活排水に含まれる栄養分で育っているのです。一匹の幼虫がサナギになるまでに25匹程度のカワニナを食べると言われています。つまりホタルの数の25倍のカワニナがいなければホタルの繁殖もないと言いうこととなります。

事実、過疎化の進む山間部ではホタルの数も減っているのです。徳島でも有数のホタル生息地として、国の天然記念物に指定されている吉野川市美郷地区。子供の頃に見たホタルの感動が忘れられずに、その生態を卒業研究のテーマに選んだ田中さんは、美郷のホタルの多さに圧倒されました。

美郷の川田川におけるカワニナの生息やホタルの幼虫の産卵状況をマップにするために昨年6月から準備調査を開始し、11月から本格的な調査を行っています。来月には卒業論文として完成させる予定ですが、

「まだまだ調べたいことは残って

いますし、継続していくことが大事ななので、受け継いでくれる後輩がいればうれしいですね」語る田中さん。昨年10月の取材の日には同学科3年生の成田雄紀(なりたゆうき)さんと、アドバイザーとして先端技術科学教育部の院生2年の竹川有哉(たけがわゆうや)さんが一緒に調査しました。

様々なアドバイスや応援をしてくださっている「美郷ほたる館」の武田彰仁(ただあきひと)館長は、「若い人たちが調査をしてくださるのはありがたいことです。また徳島大学には、ホタルだけでなく、美郷の活性化のために様々な角度からお世話になっています。美郷は交通の便も良いので、どんどん多くの方に来てほしいですね」と期待を寄せています。



「美郷ほたる館」武田彰仁館長と。



「美郷ほたる館」。



竹川さん(中)成田さん(右)と。

